

医用ソリューションの新展開

New Developments in Medical Solutions



小松 研一
KOMATSU Kenichi

高齢化の急速な進展，疾病の多様化並びに医療の高度化などにより，医療費は増大の一途をたどっています。このような情勢下，安心して良質な医療を受けられる患者本位の医療サービスを目指し，医療制度の抜本改革，医療経営・管理の強化，医療機器の技術革新，新医療サービスの創出などがグローバルスタンダードを意識しながら展開されています。この際，患者のQOL(Quality Of Life)に視座を据えた“医療の質と効率の両立”をいかに実現するかが最大の課題で，IT(情報技術)の高度適用によるソリューションに期待が高まっています。

例えば，社会システムとして最新医療情報の統一データベースを作ること，欧米で先行しているEBM(Evidence-Based Medicine)が実現できます。これにより，医療行為の標準化(クリティカルパス)の策定，医師の診断，治療方針の決定などへの支援など医療の質の向上が図れます。病院 - 診療所との連携における患者紹介，診療情報の相互交換，患者の家庭とインターネットで結んだヘルスケアサービスなど医療機関のIT化は医療の姿を飛躍的に変えていくと思われま。当社では，このような多様な医療ニーズに的確にこたえるため，“イメージング”，“病院”，“ヘルスケアエンタープライズ”の3階層にわたるトータル医用ソリューションの提供を目指しています。

さて，医用ソリューション事業では，国内外の先進的ユーザーとの臨床応用研究が重要になります。更に，コアとなる要素技術開発では大学などの工学系研究機関とも密接な連携を図り，医・工・企業の三位一体のコラボレーションを推進していくことが不可欠になります。このような協業的R&Dを推進するためICCC(International Collaborated Customer Chain)と称するフレームワークを新たに構築しました。既に，米国No.1ホスピタルのジョーンズ ホプキンス大学(JHU)放射線科をはじめとする国内外拠点において成果が出つつあります。

市場のボーダーレス化によりグローバルメガコンペティションがますます激化しています。このようななか，当社はあくまで“真に医療に役だつ技術開発”を基本理念とし，市場が求める高付加価値技術の開発を通して“人に優しい患者中心の医療”の実現に貢献していきます。